

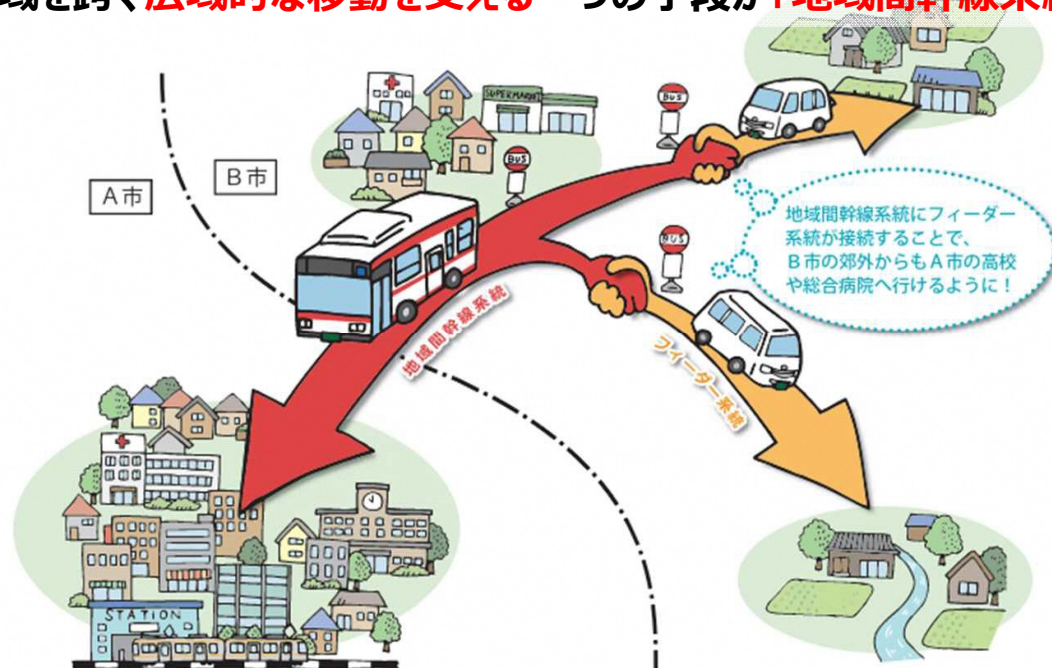
令和4年度 地域間幹線系統に関する事業評価

静岡県交通基盤部都市局地域交通課

富国有徳の理想郷－しずおか
ふじのくに

地域間幹線系統とは

日常生活における通勤、通学、通院の流動実態等から、
結びつきの強い市町の組み合わせを**交通圏**として設定。(出典：中部運輸局「中部の交通圏」)
圏内や圏域を跨ぐ**広域的な移動を支える**一つの手段が「**地域間幹線系統**」です。

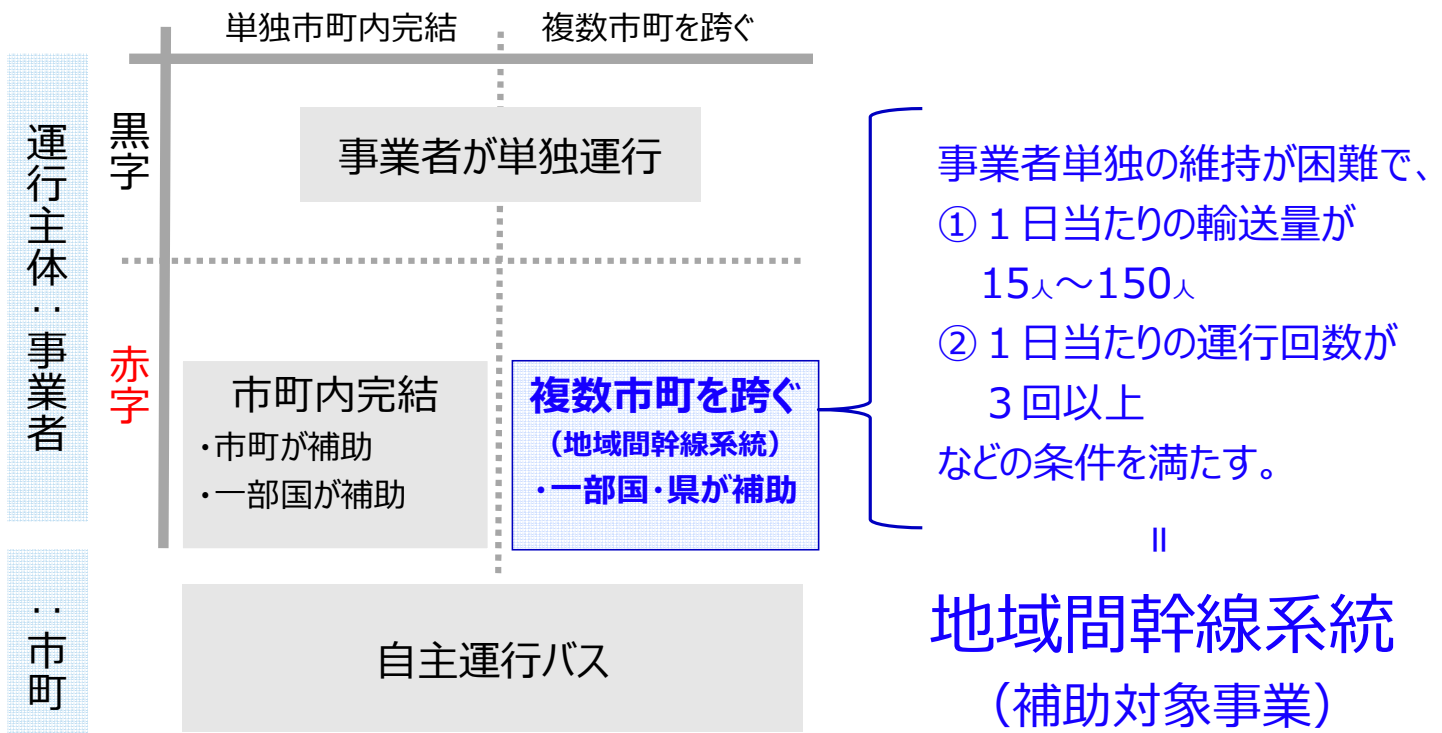


出典：地域間幹線バスが地域で役立つようにするために(監修：中部運輸局)

富国有徳の理想郷－しずおか
ふじのくに

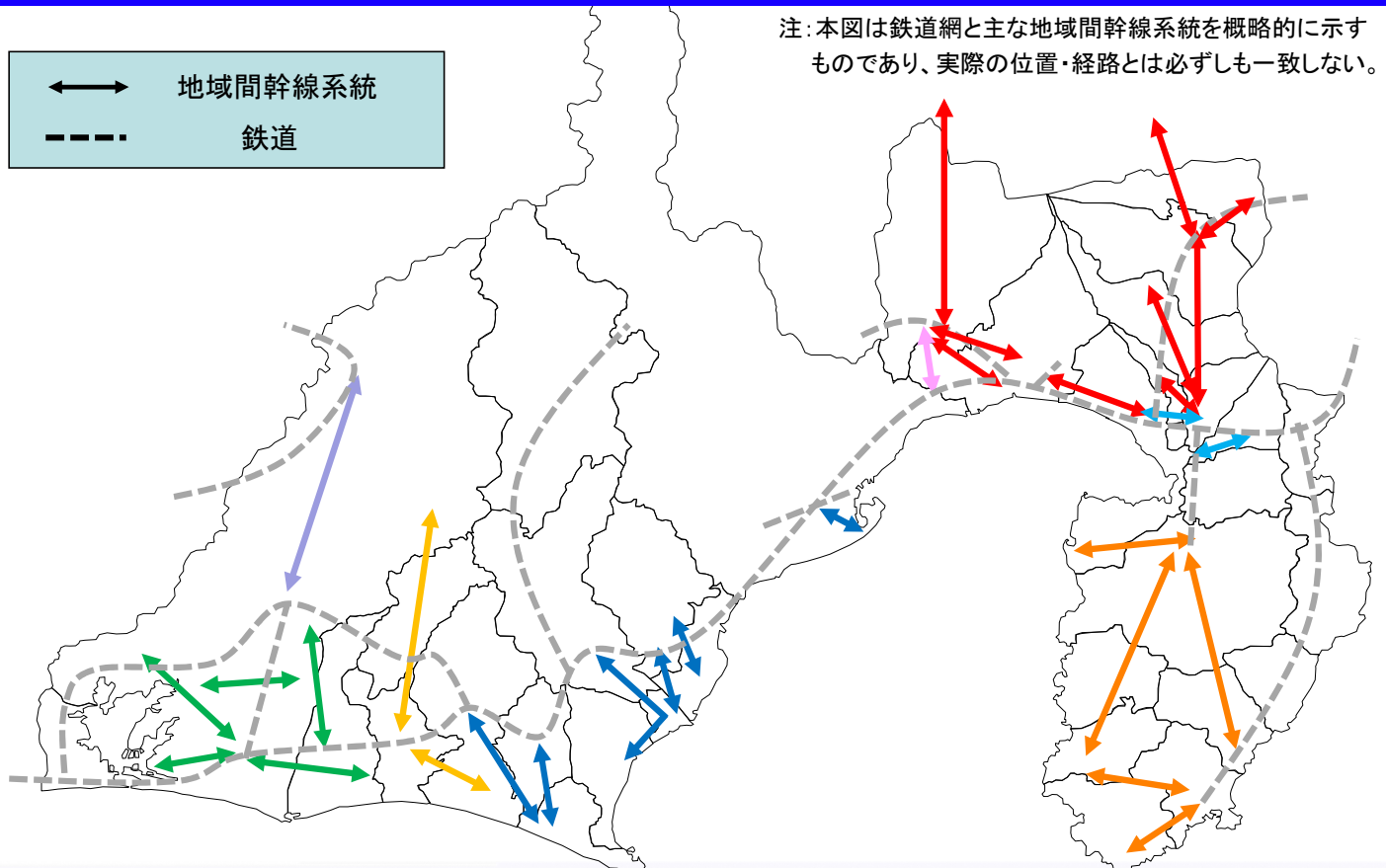
地域間幹線系統に係る国・県の補助対象事業

収支から見る乗合バス事業の全体像と幹線系統の位置付け



富国有徳の理想郷 - しずおか
ふじのくに

県内の地域間幹線系統(概略図)



富国有徳の美しい“ふじのくに”
静岡県

地域間幹線系統の評価(なぜ評価を行うのか)

- 補助対象事業が適切に行われているか確認する
- 評価結果を分析し、事業改善に繋げる
- 補助対象事業をより効果的、効率的に実施するため

(参考) 事業評価実施の根拠

地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱

第3条

5 協議会※は、補助対象事業ごとに補助対象事業について評価を行い、その結果について地方運輸局又は地方航空局の長に報告しなければならない。

※本県においては静岡県生活交通確保対策協議会を指す。

静岡県の地域間幹線系統評価基準

次の項目を点数化し、合計点をA・B・Cで評価

項目	評価する内容	評価
①運行回数	計画値に対する実績値	計画数以上：3点 計画数未満：0点
②収支率	実績値	30%未満：0点（5%毎に3点加算） 55%以上：18点（満点）
③乗車人員	計画値に対する実績値	5%超：6点、△5%以上5%未満：3点 △5%超：0点
④ネットワーク構成	鉄道等への乗換可能拠点数	鉄道駅及びバスターミナルでの結節：1箇所2点 その他のバス停での結節：1箇所1点
⑤広域移動状況	市町を跨いで移動する人の割合	5%未満：0点（5%毎に5点加算） 20%以上：20点（満点）
⑥キロ当たり経費	国が示す標準単価との比較	単価以上：0点（△5%毎に5点加算） △15%超：12点
	合計	A評価：52～79点 B評価：26～51点 C評価：0～25点

	A評価	B評価	C評価	系統数
山梨交通	0	1	0	1
秋葉バスサービス	4	0	0	4
遠州鉄道	8	12	2	22
しずてつジャストライン	3	8	0	11
富士急モビリティ	3	1	0	4
富士急バス	1	1	0	2
富士急静岡バス	4	0	0	4
富士急シティバス	3	4	0	7
伊豆箱根バス	2	1	0	3
東海バス	2	4	0	6
水窪タクシー	0	1	0	1
合計	30	33	2	65

富国有徳の理想郷 - しずおか

ふじのくに

6

評価結果内訳(昨年度との比較)

昨年度に比べ、14系統の評価が向上 (平均点は5.2点増加)

事業者名	系統名	R3	R4	比較	事業者名	系統名	R3	R4	比較	事業者名	系統名	R3	R4	比較		
1	山梨交通	富士宮駅～イオン、長山台～護国病院	B	B	—	23	奥山線	B	A	○	45	富士急	曾比奈線	A	A	—
2	秋葉バスサービス	秋葉線	B	A	○	24	志都呂宇布見線	B	B	—	46	静岡バス	大淵線	A	A	—
3		秋葉中遠線	A	A	—	25	志都呂宇布見線	B	B	—	47		大月線	A	A	—
4		秋葉中遠線	B	A	○	26	浜名線	B	B	—	48		大月線	A	A	—
5		秋葉中遠線	A	A	—	27	掛塚さなる台線	B	A	○	49	駿河平線	A	A	—	
6	遠州鉄道	大久保線	C	C	—	28	三保草薙線	B	B	—	50	富士急	須山線	A	A	—
7		伊佐見線	C	B	○	29	五十海大住線	B	B	—	51		須山線	A	B	△
8		浜北医大三方原聖隷線	B	B	—	30	焼津岡部線	B	B	—	52		原線	B	B	—
9		伊平線	A	A	—	31	藤枝吉永線	A	A	—	53		桜堤線	A	B	△
10		磐田市立病院福田線	B	B	—	32	島田静波線	B	B	—	54		がんセンター線	—	B	△
11		中ノ町磐田線	B	B	—	33	しずてつジャストライン	島田静波線	B	A	○	55	がんセンター線	—	A	△
12		秋葉線	B	C	△	34	藤枝相良線	B	B	—	56	伊豆箱根バス	大場函南線	B	B	—
13		磐田天竜線	B	B	—	35	菊川浜岡線	B	B	—	57		沼津大岡三島線	—	A	△
14		磐田天竜線	B	B	—	36	掛川大東浜岡線	B	B	—	58		長岡伊豆三津シーパラダイス線	—	A	△
15		掛塚さなる台線	B	A	○	37	掛川大東浜岡線	B	A	○	59	東海バス	石廊崎線	B	B	—
16	内野台線	B	A	○	38	掛川大東浜岡線	B	B	—	60	天城峠線		B	B	—	
17	内野台線	B	B	—	39	御殿場線	B	A	○	61	戸田線		B	B	—	
18	磐田市立病院福田線	B	B	—	40	富士急	駿河小山線	B	A	○	62		西海岸線	—	B	△
19	引佐線	A	A	—	41	モビリティ	十里木線	B	B	—	63		パサラ峠線	—	A	△
20	萩丘都田線	B	A	○	42	河口湖線	B	A	○	64	パサラ峠線	—	A	△		
21	大塚ひとみヶ丘線	B	B	—	43	富士急バス	河口湖線	B	A	○	65	水窪タクシー	北遠本線	B	B	—
22	気賀三ヶ日線	A	A	—	44	新富士線	B	B	—							

※本年度の評価結果内訳は別添資料参照

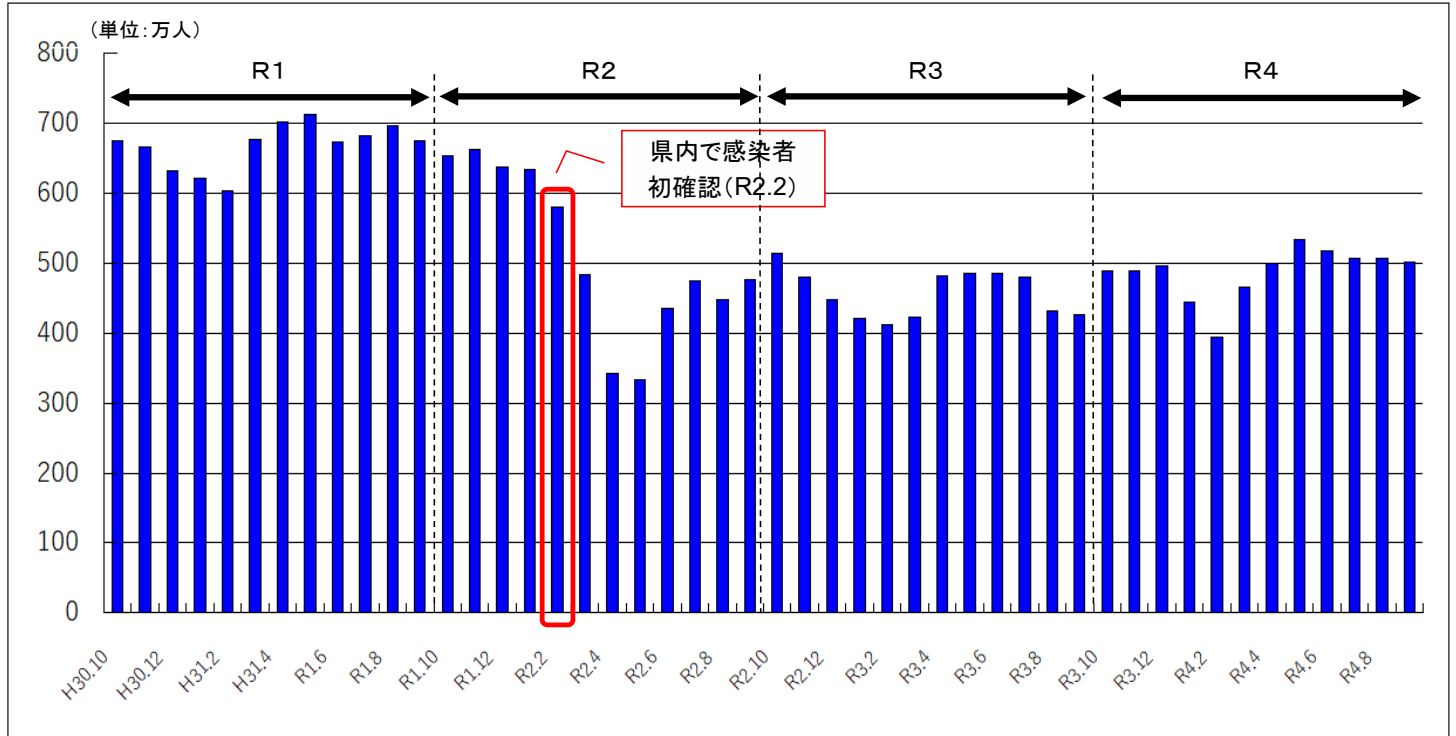
富国有徳の理想郷 - しずおか

ふじのくに

7

新型コロナウイルスの影響

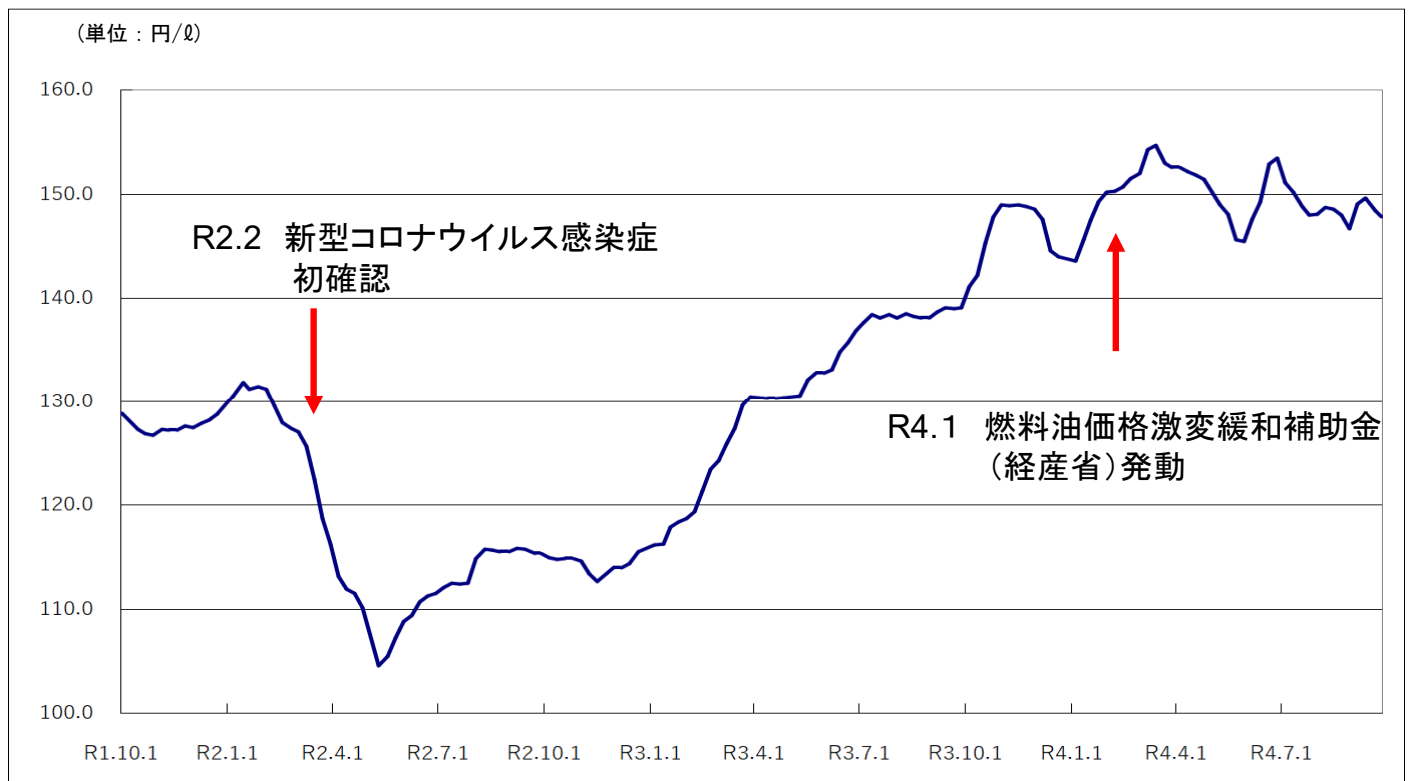
県内の乗合バス利用者数の推移（H30.10～R4.9）



(静岡県地域交通課調査)

燃料価格など物価高騰の影響

県内の軽油小売価格の推移（R1.10～R4.9）



(資源エネルギー庁調査をもとに県地域交通課作成)

事業者による取組の例

区分	事例
費用削減策	<ul style="list-style-type: none">・車両搭載燃料抑制による燃料使用量削減・デジタルタコグラフを活用した指導で燃料費抑制
利用促進策	<ul style="list-style-type: none">・バスロケーションシステムの導入・キャッシュレス決済機器の導入・市町と連携したバスの乗り方教室の実施
コロナ対策	<ul style="list-style-type: none">・車内の消毒、走行中の換気・車内抗菌処理・感染防止対策品の配布

県内自治体による支援の例

区分	事例
利用促進策	<ul style="list-style-type: none">・公共交通利用券の配布・バスロケーションシステム導入費用の補助・キャッシュレス決済機器導入費用の補助
コロナ対策	<ul style="list-style-type: none">・感染防止の衛生対策（車内消毒等）・感染防止対策品の配布・車内の密を防ぐ運行に対する費用の補助
物価高騰対策	<ul style="list-style-type: none">・車両維持費への補助・燃料費高騰分の補助

令和4年度地域間幹線系統の事業評価結果（概要）

1 事業評価の目的

事業評価は、静岡県生活交通確保対策協議会が定めた静岡県地域間幹線系統確保維持計画に位置づけられた補助対象系統について、事業の実施状況の確認や目標の達成状況等の評価を行い、市町が開催する地域公共交通会議等における評価内容に対する議論・検討の活性化や広く県民に内容を公表することによる理解の促進など、補助対象事業が効果的、効率的に実施されることを目的として実施している。

2 評価項目

項目		内容
前提事項 (点数無)	主な運行目的	利用実態等を含めた当該系統の運行目的
	増収策	路線維持のための増収策
	費用削減策	路線維持のための費用削減策
評価事項	運行回数	計画運行回数に対する実績運行回数を評価(3点満点)
	収支率	実績値を評価(収支率55%以上満点)
	乗車人員	計画値に対する実績値を評価(+5%以上満点)
	ネットワーク構成	鉄道等への乗換可能な拠点数を評価(上限20点)
	広域トリップ状況	バス利用者の市町を跨ぐ移動割合を評価(20%以上満点)
	キロ当たり経費	国上限単価と事業者単価を比較(国単価比-20%超満点)
	拠点等アクセス状況	バス停から半径500m以内の拠点施設を記載(評価点無)

【各項目に評価点を設定し、合計点に応じて以下のとおり評価】

評価	内容
A (52~79点)	地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B (26~51点)	地域間幹線系統として適した運行となっている
C (0~25点)	地域間幹線系統として改善に努力を要する

3 事業評価結果の概要

全体評価：B（参考：R2：B、R3：B）

- ・ 評価対象系統全65系統中、A評価：30系統、B評価：33系統、C評価：2系統
- ・ 平均点数が49.0点（R3比+5.2点）であることから、全体評価を『B』とした。
- ・ 各系統の評価結果は別添「令和4年度地域間幹線系統総合評価一覧表」のとおり。

令和4年度地域間幹線系統総合評価一覧表

事業者名	系統名	評価項目①	評価項目②	評価項目③	評価項目④	評価項目⑤	評価項目⑥	点数 (A:52~79) (B:26~51) (C: ~25)	評価				事業者 平均	全体評価
		運行回数 満点3点	収支率 満点18点	乗車人員 満点6点	ネットワーク 満点20点	広域トリップ 満点20点	キロ当たり経費 満点12点		A	B	C	計		
山梨交通	1 富士宮駅・イオン・星山台・蒲原病院線	3	3	6	6	20	6	44		○		1	44.0	B [全体評価の理由] ・全65系統中33系統がB評価である。 ・平均評価点数が49.0点である。
秋葉バスサービス	2 秋葉線(袋井駅前～遠州森町～気多)	3	0	6	11	20	12	52	○			4	54.0	
	3 秋葉中遠線(袋井駅前～袋井市民病院～遠州森町)	3	12	3	11	15	12	56	○					
	4 秋葉中遠線(大東支所～袋井駅南口)	3	12	3	6	20	12	56	○					
	5 秋葉中遠線(横須賀車庫～袋井駅南口)	3	12	0	5	20	12	52	○					
遠州鉄道	6 大久保線	0	6	0	12	0	3	21			○	22	45.4	
	7 伊佐見線	3	9	0	14	0	3	29		○				
	8 浜北医大三方原線	3	6	0	17	20	3	49		○				
	9 伊平線	0	18	0	20	20	3	61	○					
	10 磐田市立病院福田線(磐田市立病院～豊浜郵便局)	3	12	0	7	20	3	45		○				
	11 中ノ町磐田線	0	18	6	9	10	3	46		○				
	12 秋葉線	0	0	0	7	15	3	25			○			
	13 磐田天竜線(山東～磐田駅)	0	15	0	8	20	3	46		○				
	14 磐田天竜線(ららぼーと経由)	0	12	0	8	20	3	43		○				
	15 掛塚さなる台線(浜松駅～豊浜郵便局)	0	18	6	9	20	3	56	○					
	16 内野台線(内野台車庫)	0	18	6	10	20	3	57	○					
	17 内野台線(サンストリート浜北)	3	15	0	10	20	3	51		○				
	18 磐田市立病院福田線(磐田駅南口～豊浜郵便局)	0	6	0	5	20	3	34		○				
	19 引佐線	0	18	0	20	20	3	61	○					
	20 萩丘都田線	3	18	3	10	15	3	52	○					
	21 大塚ひとみヶ丘線	0	18	0	13	0	3	34		○				
	22 気賀三ヶ日線	0	18	3	15	20	3	59	○					
	23 奥山線	3	18	0	14	20	3	58	○					
	24 志都呂宇布見線(浜松駅～山崎)	0	18	3	7	15	3	46		○				
	25 志都呂宇布見線(浜松駅～舞阪駅)	0	18	3	8	5	3	37		○				
	26 浜名線	0	18	3	8	0	3	32		○				
	27 掛塚さなる台線(浜松駅～掛塚)	3	18	6	8	20	3	58	○					
しずてつジャストライン	28 三保草薙線	3	12	6	5	5	3	34		○		11	47.4	
	29 五十海大住線	3	12	3	7	20	3	48		○				
	30 焼津岡部線	0	9	0	5	20	3	37		○				
	31 藤枝吉永線	3	18	6	8	20	3	58	○					
	32 島田静波線(島田駅前～静波海岸入口)	3	9	0	9	20	3	44		○				
	33 島田静波線(島田市民病院～静波海岸入口)	3	12	6	13	20	3	57	○					
	34 藤枝相良線	3	6	6	12	20	3	50		○				
	35 菊川浜岡線	3	12	0	4	20	3	42		○				
	36 掛川大東浜岡線(掛川駅前～浜岡営業所)	3	6	6	7	20	3	45		○				
	37 掛川大東浜岡線(中東遠総合医療センター～浜岡営業所)	3	18	6	9	20	3	59	○					
	38 掛川大東浜岡線(掛川駅前～大東支所)	3	12	6	4	20	3	48		○				
富士急モビリティ	39 御殿場線	3	9	6	15	20	0	53	○		4	52.0		
	40 駿河小山線	3	15	3	11	20	0	52	○					
	41 十里木線	3	6	6	7	20	0	42		○				
	42 河口湖線	3	18	3	17	20	0	61	○					
富士急バス	43 河口湖線	3	15	0	17	20	0	55	○		2	52.0		
	44 新富士線	3	3	6	17	20	0	49		○				
富士急静岡バス	45 曾比奈線	3	18	6	8	20	6	61	○		4	63.0		
	46 大淵線	3	18	6	10	20	6	63	○					
	47 大月線(吉原中央駅～富士宮駅)	3	18	6	10	20	6	63	○					
	48 大月線(新富士駅～静岡県富士山世界遺産センター)	3	18	6	12	20	6	65	○					
富士急シティバス	49 駿河平線	0	18	6	11	20	0	55	○		7	48.5		
	50 須山線(三島駅～須山)	3	12	6	12	20	0	53	○					
	51 須山線(三島駅～下和田)	3	6	0	11	20	0	40		○				
	52 原線	0	18	6	10	5	0	39		○				
	53 桜堤線	0	18	6	7	20	0	51		○				
	54 がんセンター線(沼津駅～がんセンター)	3	18	0	6	20	0	47		○				
	55 がんセンター線(三島駅～がんセンター)	3	18	6	8	20	0	55	○					
伊豆箱根バス	56 大場函南線	3	3	0	7	20	6	39		○	3	54.3		
	57 沼津大岡三島線	3	18	6	11	20	6	64	○					
	58 長岡伊豆三津シーパラダイス線	3	18	6	7	20	6	60	○					
東海バス	59 石廊崎線	3	3	0	7	20	3	36		○	6	49.5		
	60 天城峠線	3	6	0	15	20	3	47		○				
	61 戸田線	3	15	0	7	20	3	48		○				
	62 西海岸線	3	9	0	11	20	3	46		○				
	63 バサラ峠線(下田駅～堂ヶ島)	3	12	6	13	20	3	57	○					
	64 バサラ峠線(下田駅～宇久須)	3	18	6	13	20	3	63	○					
水窪タクシー	65 北遠本線	0	0	6	13	5	12	36		○	1	36.0		
計							平均	49.0	30	33	2	65		

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

(様式1)

事業者名 株式会社東海バス
 系統名(起点～経由地～終点) 天城峠線 (修善寺駅～天城峠～河津駅)
 計画策定年度 令和3年度 運行期間 R3.10.1～R4.9.30 評価年度 令和4年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	年間計画運行回数と実績運行回数を比較	(3,650)回 (10.0回/日)	(3,650)回 (10.0回/日)	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	計画値に対する実績値	38.6%	37.9%	6	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	
乗車人員	計画人員と実績人員を比較	131,473人	121,180人	0	5%超 6点 ▲5%以上5%以内 3点 ▲5%超 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(2)箇所 バス停(11)箇所	15	拠点(駅・BT): 1箇所2点 乗換可能なバス停: 1箇所1点 上限20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	26.5	20	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	評価対象外 (バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等))	—	施設名称 伊豆総合高校、天城中学校、天城小学校、河津西小学校、河津中学校、河津南小学校、伊豆赤十字病院、中島病院、伊豆慶友病院、マックスバリュ修善寺駅前店、マックスバリュエクスプレス天城湯ヶ島店、フードストアあおき河津店、マックスバリュエクスプレス河津店、伊豆箱根鉄道線修善寺駅、伊豆市役所、伊豆市 天城湯ヶ島支所、河津町役場、伊豆急行線河津駅	—	—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の地域キロ当たり經常費用単価(静岡・山梨ブロック)との比較	—	402.90円	3	単価を上回った 0点 単価～▲5% 3点 単価▲6～▲10% 6点 単価▲11～▲15% 9点 単価▲16～▲20%超 12点	
合計				47	評価指標	B

A(52～79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
 B(26～51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている
 C(～25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項目	内容
主な運行目的	<p>当該路線は、伊豆箱根鉄道の修善寺駅から伊豆急行線の河津駅を結ぶ41.7kmの長距離路線で、伊豆半島の南北をつなぐ重要な路線となっている。修善寺から河津へ移動する場合、鉄道では、三島、熱海、伊東をぐるっと回らなければならないところを直接つないでおり、伊豆市と河津町の境となる「天城峠」を越える観光利用や旧修善寺町と旧湯ヶ島町を跨いで利用する通学、通院、買い物の足としての運行が目的である。</p> <p>「天城峠」および旧修善寺町と旧湯ヶ島町を跨いで利用されている利用者は、全体の26.5%となっている。</p>
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の利用実態に即した、平日型通学定期券の発売を引続き実施している。 2. 時刻表を市役所等で配布している他、新聞折込等により各戸へ配布している。 3. 時刻表検索サイトへの掲出により、鉄道との乗り継ぎ時刻が検索できるようになっている。 4. 高校生に対し、バスのダイヤ等に関するアンケートを実施し、ダイヤ改正に生かしている。 5. バスロケーションシステムを活用し、バスの接近情報をスマートフォンで表示できるサービスにより、利便性の向上を図っている。 6. 修善寺駅、河津駅等において、デジタルサイネージを設置し、時刻案内等を行っている。 7. ホームページを多言語対応とすることにより、インバウンド客の利便性向上を図っている。 8. 乗車券販売窓口(一部除く)において、クレジットカードおよびQRコード決済サービスの取り扱いを行うことにより、利便性向上を図っている。 9. 小田急の進める「MaaS」に参画し、デジタルフリーパスの取り扱い等により利便性の向上を図っている。 10. 交通系ICカードの導入により、利便性の向上を図っている。
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 5年度賃金(人件費)についても、業績連動制度により経費の抑制に努めている。 2. エコドライブ(省燃費運転)を継続して取り組み経費抑制に努めている。 3. 乗務員の運転技術の向上に努めることにより、バス車両修繕費の抑制を図っている。

(2) 各項目の評価

項目	内容
ネットワーク構成	<p>(主な乗換え拠点・バス停)</p> <p>拠点: 伊豆箱根鉄道線修善寺駅、伊豆急行線河津駅 バス停: 修善寺駅口、修善寺温泉入口、畑入口、柿木橋、天城小学校、出口、吉奈温泉口、弘道寺入口、湯ヶ島温泉口、二階滝、峰温泉</p>
公共施設 拠点施設 アクセス状況	<p>(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設)</p> <p>伊豆総合高校、天城中学校、天城小学校、河津西小学校、河津中学校、河津南小学校、伊豆赤十字病院、中島病院、伊豆慶友病院、マックスバリュ修善寺駅前店、マックスバリュエクスプレス天城湯ヶ島店、フードストアあおき河津店、マックスバリュエクスプレス河津店、伊豆箱根鉄道線修善寺駅、伊豆市役所、伊豆市 天城湯ヶ島支所、河津町役場、伊豆急行線河津駅</p>

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

(様式1)

事業者名 株式会社東海バス
 系統名(起点～経由地～終点) 戸田線 (修善寺駅～虹の郷～戸田)
 計画策定年度 令和3年度 運行期間 R3.10.1～R4.9.30 評価年度 令和4年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	年間計画運行回数と実績運行回数を比較	(2,555)回 (7.0回/日)	(2,555)回 (7.0回/日)	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	計画値に対する実績値	49.1%	52.8%	15	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	
乗車人員	計画人員と実績人員を比較	44,791人	30,897人	0	5%超 6点 ▲5%以上5%以内 3点 ▲5%超 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(1)箇所 バス停(5)箇所	7	拠点(駅・BT): 1箇所2点 乗換可能なバス停: 1箇所1点 上限20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	68.6	20	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	評価対象外(バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等)	—	施設名称 伊豆総合高校、戸田中学校、戸田小学校、伊豆赤十字病院、マックスバリュ修善寺駅前店、伊豆箱根鉄道修善寺駅、伊豆市役所、修善寺総合会館、沼津市戸田市民窓口、くら戸田	—	—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の地域キロ当たり經常費用単価(静岡・山梨ブロック)との比較	—	402.90円	3	単価を上回った 0点 単価～▲5% 3点 単価▲6～▲10% 6点 単価▲11～▲15% 9点 単価▲16～▲20%超 12点	
合計				48	評価指標	B

A(52～79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
 B(26～51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている
 C(～25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項目	内容
主な運行目的	<p>修善寺駅と鉄道のない戸田地区を結ぶ重要な路線であり、また、戸田からは土肥温泉あるいは井田方面へ乗り換えることができる幹線系統となっており、高齢化率の高い戸田地区においての地域住民の足の確保が目的となっている。伊豆市と沼津市の境となる「戸田峠」を越える利用は、全体の7割近くとなっており、そのうち通勤、通学、通院等を目的とした地元客が8割程度を占めている。また、戸田峠を越えない短距離利用客の内訳は、修善寺温泉や虹の郷へ行く観光利用が多く、通院等の利用は比較的少ない。</p>
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の利用実態に即した、平日型通学定期券の発売を引続き実施している。 2. 時刻表を市役所等で配布している他、新聞折込等により各戸へ配布している。 3. 時刻表検索サイトへの掲出により、鉄道との乗り継ぎ時刻が検索できるようになっている。 4. 高校生に対し、バスのダイヤ等に関するアンケートを実施し、ダイヤ改正に生かしている。 5. バスロケーションシステムを活用し、バスの接近情報をスマートフォンで表示できるサービスにより、利便性の向上を図っている。 6. 修善寺駅、くらら戸田等において、デジタルサイネージを設置し、時刻案内等を行っている。 7. ホームページを多言語対応とすることにより、インバウンド客の利便性向上を図っている。 8. 乗車券販売窓口(一部除く)において、クレジットカードおよびQRコード決済サービスの取り扱いを行うことにより、利便性向上を図っている。 9. 小田急の進める「MaaS」に参画し、デジタルフリーパスの取り扱い等により利便性の向上を図っている。 10. 交通系ICカードの導入により、利便性の向上を図っている。
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 5年度賃金(人件費)についても、業績連動制度により経費の抑制に努めている。 2. エコドライブ(省燃費運転)を継続して取り組み経費抑制に努めている。 3. 乗務員の運転技術の向上に努めることにより、バス車両修繕費の抑制を図っている。

(2) 各項目の評価

項目	内容
ネットワーク構成	<p>(主な乗換え拠点・バス停)</p> <p>拠点: 伊豆箱根鉄道修善寺駅 バス停: 修善寺駅口、修善寺温泉入口、修善寺温泉、ニュータウン入口、戸田</p>
公共施設 拠点施設 アクセス状況	<p>(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設)</p> <p>伊豆総合高校、戸田中学校、戸田小学校、伊豆赤十字病院、マックスパリュ修善寺駅前店、伊豆箱根鉄道修善寺駅、伊豆市役所、修善寺総合会館、沼津市戸田市民窓口、くらら戸田</p>

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

(様式1)

事業者名 株式会社東海バス
 系統名(起点～経由地～終点) 西海岸線 (修善寺駅～土肥温泉～松崎)
 計画策定年度 令和3年度 運行期間 R3.10.1～R4.9.30 評価年度 令和4年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	年間計画運行回数と実績運行回数を比較	(4,992)回 (13.6回/日)	(4,992)回 (13.6回/日)	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	計画値に対する実績値	58.4%	42.7%	9	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	
乗車人員	計画人員と実績人員を比較	146,373人	126,241人	0	5%超 6点 ▲5%以上5%以内 3点 ▲5%超 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(2)箇所 バス停(7)箇所	11	拠点(駅・BT): 1箇所2点 乗換可能なバス停: 1箇所1点 上限20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	77.5	20	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	評価対象外 (バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等))	—	施設名称 伊豆総合高校、伊豆総合高校土肥分校、松崎高校、天城小学校、土肥小中一貫校、西伊豆中学校、賀茂小学校、松崎小学校、伊豆赤十字病院、中島病院、西伊豆病院、石田病院、マックスパリュ修善寺駅前店、マックスパリュエクスプレス天城湯ヶ島店、マックスパリュエクスプレス土肥店、フードストアあおき西伊豆店、伊豆市役所、伊豆市役所土肥支所、西伊豆町役場、松崎町役場、伊豆箱根鉄道線修善寺駅		—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の地域キロ当たり經常費用単価(静岡・山梨ブロック)との比較	—	402.90円	3	単価を上回った 0点 単価～▲5% 3点 単価▲6～▲10% 6点 単価▲11～▲15% 9点 単価▲16～▲20%超 12点	
合計				46	評価指標	B

A(52～79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
 B(26～51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている
 C(～25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項目	内容
主な運行目的	当該路線は、鉄道のない西伊豆地区の住民にとって、通勤、通学、通院、買い物等の生活の足として重要な役割を担っているだけでなく、三島、修善寺方面から土肥温泉・堂ヶ島・松崎への観光客の移動手段等も目的として運行しており、欠かすことの出来ない路線となっている。 市町を跨ぐ利用は、全体の約8割と非常に高く、また1人平均乗車キロも令和4年度実績で16.8キロと長距離になっている等、地域間幹線系統としての役割を果たしている路線となっている。
増収策	1. 利用者の利用実態に即した、平日型通学定期券の発売を引続き実施している。 2. 時刻表を市役所等で配布している他、新聞折込等により各戸へ配布している。 3. 時刻表検索サイトへの掲出により、鉄道との乗り継ぎ時刻が検索できるようになっている。 4. 高校生に対し、バスのダイヤ等に関するアンケートを実施し、ダイヤ改正に生かしている。 5. バスロケーションシステムを活用し、バスの接近情報をスマートフォンで表示できるサービスにより、利便性の向上を図っている。 6. 修善寺駅、土肥港フェリーターミナル、堂ヶ島、松崎等において、デジタルサイネージを設置し、時刻案内等を行っている。 7. ホームページを多言語対応とすることにより、インバウンド客の利便性向上を図っている。 8. 乗車券販売窓口(一部除く)において、クレジットカードおよびQRコード決済サービスの取り扱いを行うことにより、利便性向上を図っている。 9. 小田急の進める「MaaS」に参画し、デジタルフリーパスの取り扱い等により利便性の向上を図っている。 10. 交通系ICカードの導入により、利便性の向上を図っている。
費用削減策	1. 5年度賃金(人件費)についても、業績連動制度により経費の抑制に努めている。 2. エコドライブ(省燃費運転)を継続して取り組み経費抑制に努めている。 3. 乗務員の運転技術の向上に努めることにより、バス車両修繕費の抑制を図っている。

(2) 各項目の評価

項目	内容
ネットワーク構成	(主な乗換え拠点・バス停) 拠点: 伊豆箱根鉄道修善寺駅、松崎 バス停: 修善寺駅口、修善寺温泉入口、畑入口、柿木橋、出口、宇久須、浜橋
公共施設 拠点施設 アクセス状況	(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設) 伊豆総合高校、伊豆総合高校土肥分校、松崎高校、天城小学校、土肥小中一貫校、西伊豆中学校、賀茂小学校、松崎小学校、伊豆赤十字病院、中島医院、西伊豆病院、石田病院、マックスバリュ修善寺駅前店、マックスバリュエクスプレス天城湯ヶ島店、マックスバリュエクスプレス土肥店、フードストアあおき西伊豆店、伊豆市役所、伊豆市役所土肥支所、西伊豆町役場、松崎町役場、伊豆箱根鉄道線修善寺駅